

# 常任委員会事務調査報告

## 総務企画常任委員会

委員長 岩村 文郎

### デマンド型タクシーの運行を調査

(11月27日 野木町)  
11月18日に乗合型デマンドタクシーの実証運行を開始した野木町デマンド交通「キラ輪号」の運行状況を調査しました。

野木町では町内に路線バスの運行がないことから、高齢者など交通弱者対策と交通空白地域解消のため、社会福祉協議会に運行を委託して事業者から乗用タクシー2台を借り上げ、町内1エリアとしてデマンドタクシーの試験運行を始めました。

予約や配車のシステムは、導入費用が安価な無線システムを採用し、運行は、あらかじめ町が乗降場所を指定しない乗合方式で、軒先からの自由乗降としています。

利用者は利用登録を行い、利用1時間前までに電話予約を行うもので、利用料金は事前に利用券を購入する

チケット制で、大人1回片道300円となっており、今後、試験運行の結果により運行範囲の拡大や増車を検討することとした。

当町でも平成22年度にデマンド型タクシーの運行を予定しており、効率的な運行を目指して更に研究したいと思います。



野木町デマンドタクシー「キラ輪号」

## 教育民生常任委員会

委員長 阿久津武之

### 保育園・子育て支援センター運営を調査

(11月24日 さくら市)

平成22年4月に小川地区統合保育園「わかあゆ保育園」が開園することから、同規模程度の運営を行っているさくら市立「たいよう保育園」と「わくわく保育園」を調査しました。

たいよう保育園は職員数32人、園児数168人で完全給食を実施しており、自然環境を生かした様々な体験を通して豊かな感性や表現力を育み、丈夫で体力のある子を育てる保育を行っています。また、子育て支援センターでは、年間の事業実施計画を立てて募集を行っていました。

わくわく保育園は職員数24人、園児数138人で給食センターを利用した総菜のみの昼食を提供していますが、新年度より完全給食となることとした。運営の特色として、子育て支援センターと併せて地域の交流を大切にし、世代間交流や小中学校との交流を図りながら地域に愛される保育園を目指していることとした。



さくら市立わくわく保育園

## 産業建設常任委員会

委員長 橋本 操

### 遊休農地対策・そば生産振興を調査

(1月25日 鹿沼市)

当町は県下で最も遊休農地の多い町であることから、遊休農地解消の取組みと「そば」の生産振興について鹿沼市の事例を調査しました。

遊休農地については、当町と同様、年々増加傾向にあり、農業委員による農地パトロールを行ってきたが効果が見られないことから、市の委託とJA上都賀から助成を受けて農業委員全員による耕作放棄地復元実証

事業を行い、復元農地でも農作物栽培が充分可能であることが確認できたこととであり、引き続き「さつま芋栽培振興会」を設立して食用芋と焼酎用芋の栽培を行い耕作放棄地の防止・解消に取り組んでいることとした。

そばの生産振興では、特産品としての「鹿沼そば」ブランドの確立のため、収穫用のそばコンバイン導入、玄そば安定供給のための助成措置、鹿沼そば取扱店認証要領による厳しい認証基準を設けた取扱店の認証など、鹿沼そばの振興を図っており、当町でも特産品ブランド化に向けた取組みの必要性を実感しました。



鹿沼市役所で説明を受ける